

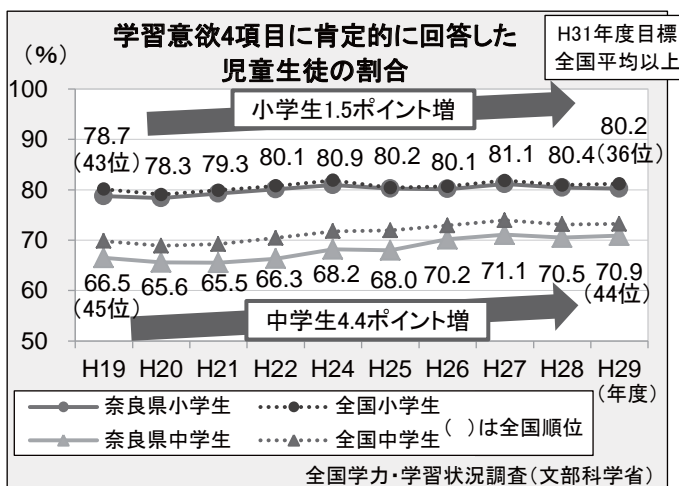
# 4 学びの支援

## 目指す姿

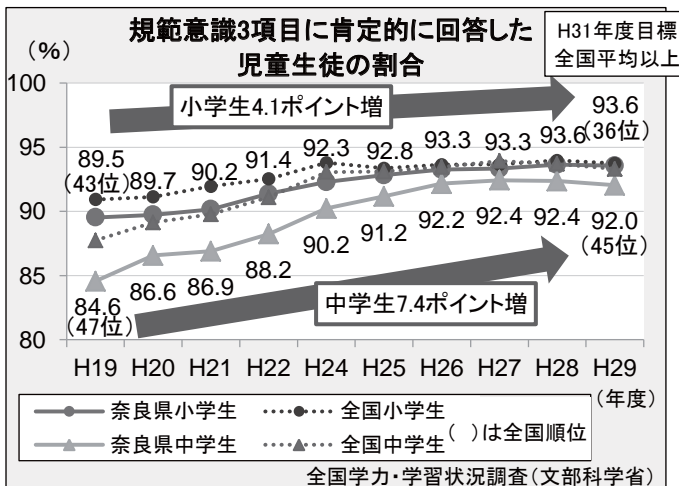
県民一人一人が学び、育ち合い、潜在力を最大限引き出すことのできる地域社会を目指します。

主担当部局(長)名  
地域振興部長 山下 保典

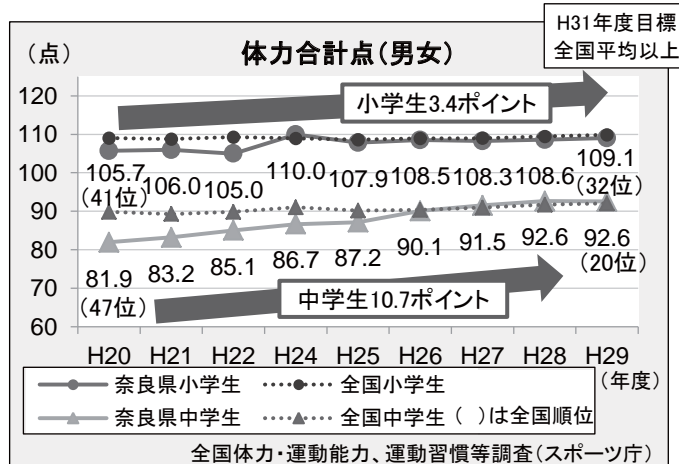
### 1. 政策目標達成に向けた進捗状況



<b>目標</b>	平成31年度までに、学習意欲の高い子どもの割合を全国平均以上にします。
<b>成果</b>	奈良県学力・学習状況調査の結果分析による課題の検証、学習意欲の向上を目指した授業改善の推進、「家庭学習の手引」の活用促進、主体的な学習習慣を身につけさせる取組等により、学習意欲4項目(教科が好き、よく分かる、大切、役に立つ)に肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成19年度と比較すると、全国平均との差は小学生で0.4ポイント、中学生で1.0ポイント縮まりました。

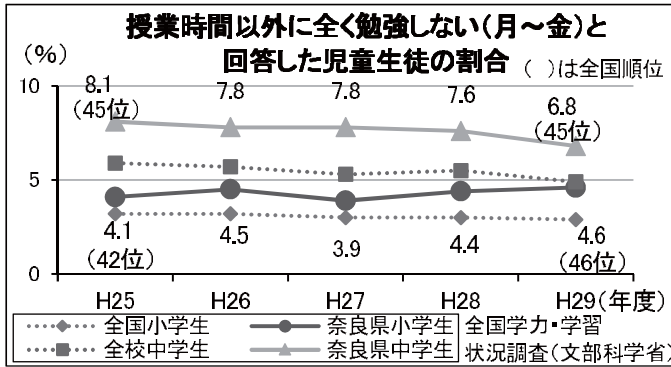


<b>目標</b>	平成31年度までに、規範意識の高い子どもの割合を全国平均以上にします。
<b>成果</b>	学校・家庭・地域の連携・協働の取組の充実、道徳指導資料の活用促進、道徳教育推進リーダーの育成による道徳教育の推進等により、規範意識3項目(学校のきまりを守る、いじめはどんな理由があってもいけない、人の役に立つ人間になりたい)に肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成19年度と比較すると、全国平均との差は小学生で1.2ポイント、中学生で1.9ポイント縮まりました。

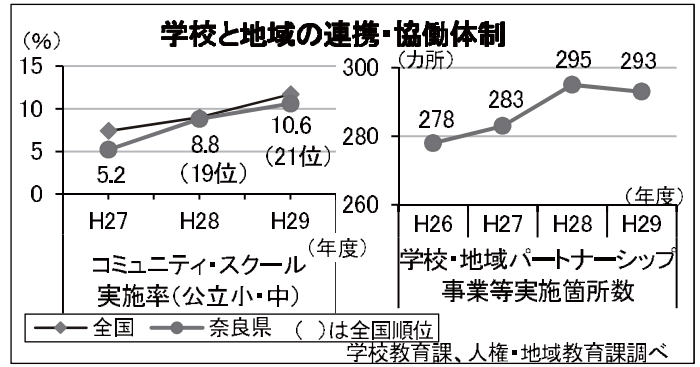


<b>目標</b>	平成31年度までに、子どもの体力・運動能力(男女とも)を全国平均以上にします。
<b>成果</b>	各学校における体力向上推進計画の実行及び体育授業の充実や、運動部活動の支援、体力向上ステップアップ事業等、運動習慣の確立に向けた取組等により、児童生徒の体力合計点は向上し、平成20年度と比較すると、全国平均との差は小学生で2.5ポイント縮まりほぼ全国平均レベルとなり、中学生で全国レベルを上回りました。

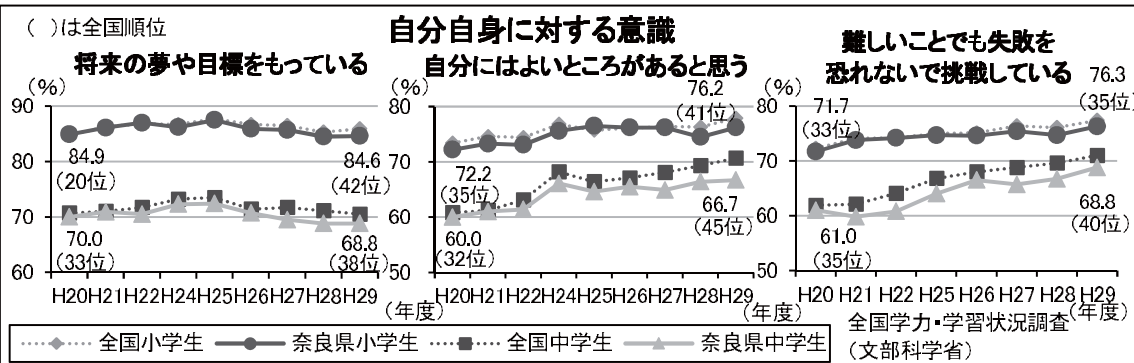
## 2. 現状分析



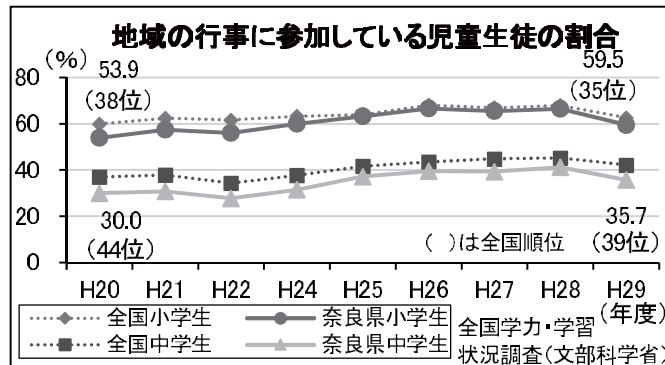
授業以外に全く勉強しない児童生徒の割合は、全国平均に比べて高く、家庭での学習習慣の定着を促進する必要があります。(→戦略1)



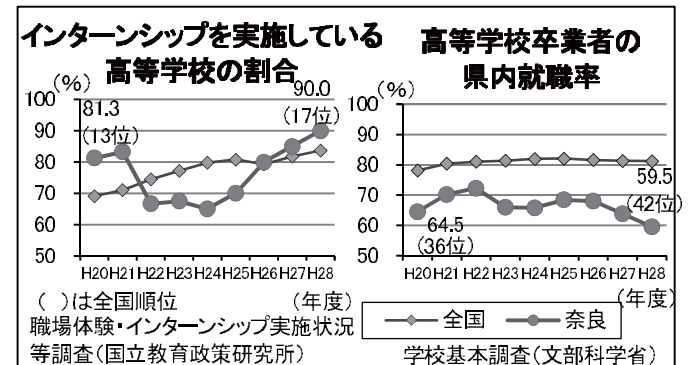
コミュニティ・スクール実施率は増加し、学校・地域パートナーシップ事業実施箇所数は学校統合の影響で減少しましたが、割合は上昇しています。(→戦略1)



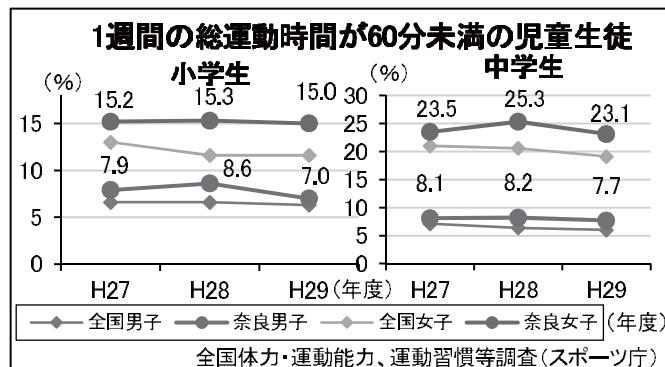
自分自身に対する意識について肯定的に回答した児童生徒の割合は微増しましたが、全国と比較して依然低位にあります。(→戦略2)



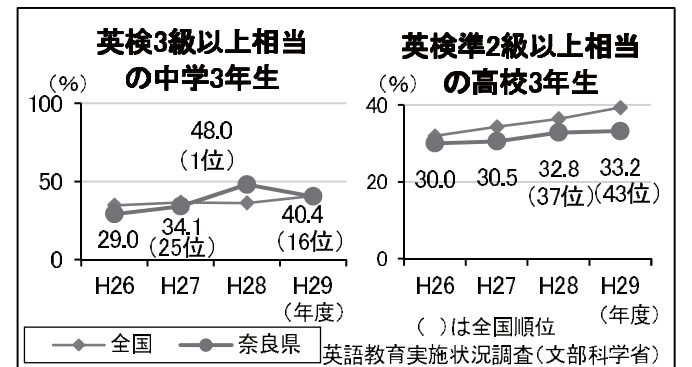
「地域の行事に参加している」と回答する小・中学生の割合は上昇傾向にあるものの、依然として全国平均より低い状態が続いています。(→戦略2)



公立高校におけるインターンシップ実施率は全国平均を上回っていますが、高校卒業者の県内就職率は低下傾向にあります。(→戦略2)



1週間の総運動時間が60分未満である児童生徒の割合は、全国平均より高い傾向にありますが、平成28年度より減少しています。(→戦略2)



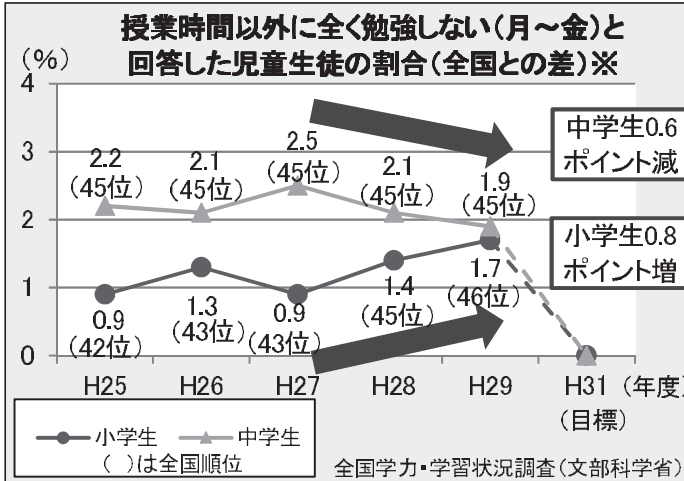
中学生の英語力は全国平均レベルですが、高校生の英語力は上昇傾向にあるものの、依然として全国平均を下回っています。(→戦略1,2)

### 3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 学びのステージに応じた教育を進めます。

主担当課(長)名 教育振興課長 谷垣 裕子

戦略目標	①平成31年度までに、幼稚園、認定こども園及び保育所への支援訪問数を400園所(累計)にします。(H27年度:32園所) ②平成31年度までに、「授業時間以外に全く勉強しない」と回答する子どもの割合を全国平均以下にします。(H27年度:小学生3.9%〈3.0%〉、中学生7.8%〈5.3%〉) ※〈 〉内は全国平均 ③平成31年度までに、県立大学におけるシニアカレッジ、公開講座の開催数を260回、参加者数を延べ20,000人にします。(H26年度:248回、延べ18,702人)
------	--



目標	平成31年度までに、「授業時間以外に全く勉強しない」と回答する子どもの割合を全国平均以下にします。(H27年度:小学生3.9%〈3.0%〉、中学生7.8%〈5.3%〉) ※〈 〉内は全国平均
成果	学力向上実践研究の推進や学力向上フォーラム等の取組により、平成29年度に「授業時間以外に全く勉強しない」と回答した児童生徒の割合は、中学生で6.8%〈4.9%〉、小学生で4.6%〈2.9%〉となり、全国平均との差は2ポイントを下回りました。

※は数値の低い方が良くなる指標

#### 主な取組指標等

特別なニーズに対応した教育の推進(②)		
個別の教育支援計画の作成率(小学校)		
58.1%	▲	93.4%
(H26年度)	35.3 ポイント	(H29年度)

基礎を培う乳幼児期における保育・教育の充実(①)		
保育所・幼稚園合同研修会において「研修会が役に立った」と回答した参加者の割合		
83.5%	▲	97.2%
(H26年度)	13.7 ポイント	(H29年度)

高等学校教育の質の向上(②)		
高等学校中途退学率※		
1.8%	▲	1.7%
(H26年度)	0.1 ポイント	(H28年度)

大学教育の質の向上(③)		
県立大学シニアカレッジの参加者数		
492人	▲	817人
(H26年度)	66.1%	(H29年度)

※は数値の低い方が良くなる指標

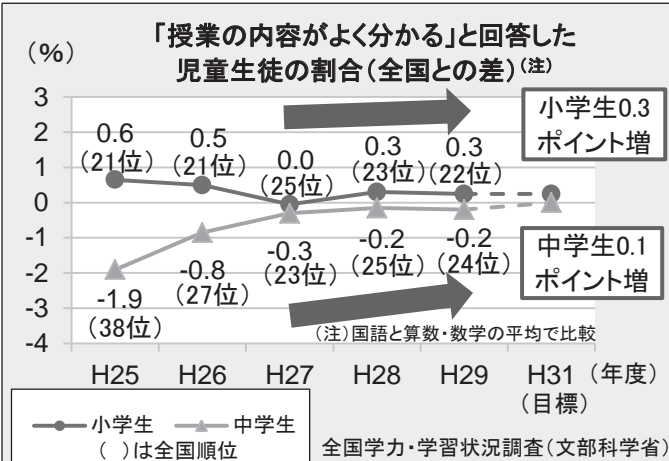
#### 数値で表せない成果

平成29年11月に「家庭教育セミナー&イベント」を、平成30年1月に家庭教育支援セミナーを開催するなど、地域における家庭教育の支援体制づくりに努めました。(平成30年12月 親子ふれあい遊びや食育に関する内容で家庭教育セミナー&イベントを実施予定)

平成30年4月に将来を展望し、自らの人生を切り拓く力を育てるため、「進路の手引」を中学1年生に配布しました。(平成30年6月 県政出前トークを活用した取組を開始)(②)

シニアカレッジの受講生による交流や自主的・継続的な学びの活動が広がりました。(平成30年4月～平成30年度シニアカレッジ開講中)(③)

戦略目標	①平成31年度までに、「自分にはよいところがある」と回答する子どもの割合を全国平均以上にします。(H27年度:小学生76.2%〈76.4%〉、中学生64.9%〈68.1%〉) ②平成31年度までに、1週間の総運動時間が60分未満である子どもの割合を全国平均以下にします。(H27年度:小学生男子7.9%〈6.6%〉、小学生女子15.2%〈13.0%〉、中学生男子8.1%〈7.1%〉、中学生女子23.5%〈21.0%〉) ③平成31年度までに、「授業の内容がよく分かる」と回答する子どもの割合を全国平均以上にします。(H27年度:小学生国語83.0%〈82.0%〉、小学生算数79.9%〈81.0%〉、中学生国語72.6%〈74.3%〉、中学生数学72.7%〈71.6%〉)※〈 〉内は全国平均
------	---



目標	平成31年度までに、「授業の内容がよく分かる」と回答する子どもの割合を全国平均以上にします。(H27年度:小学生国語83.0%〈82.0%〉、小学生算数79.9%〈81.0%〉、中学生国語72.6%〈74.3%〉、中学生数学72.7%〈71.6%〉)※〈 〉内は全国平均
成果	県立教育研究所研修講座の充実等の取組により、平成29年度に「授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合は、小学生では全国を上回り、中学生でもほぼ全国と同程度となりました。

**主な取組指標等**

規範意識の向上と地域ぐるみで課題に取り組む仕組みづくり(①,③) 県立高校生による社会参加活動延べ実施件数 1,150件 (H26年度) → 1,371件 (H29年度) 19.2%	規範意識の向上と地域ぐるみで課題に取り組む仕組みづくり(①,③) 「自分にはよいところがある」と回答する小学生の割合 75.6% (H24年度) → 76.2% (H29年度) 0.6ポイント	人権教育の推進(①) 人権教育に関する各種研修会の満足度(学校教育) 93.5% (H26年度) → 94.6% (H29年度) 1.1ポイント
健やかな体の育成と生涯スポーツの推進、青少年の健全な育成(②) 「外遊び、みんなでチャレンジ！」への記録登録件数 8,052件 (H24年度) → 10,012件 (H29年度) 24.3%	世界に伍して活躍するグローバル人材の育成(①,②,③) 高等学校における海外留学生者数(長期・短期) 68人 (H25年度) → 175人 (H29年度) 2.6倍	社会的・職業的自立に向けたキャリア・職業教育、就労支援の充実(①,②,③) キャリア教育支援員による高等学校訪問延べ回数 35回 (H26年度) → 76回 (H29年度) 2.2倍
意欲ある全ての者への学習機会の確保(①,②,③) へき地校への訪問指導が教育活動に活かされたと肯定的に回答した学校の割合 97.6% (H26年度) → 100% (H29年度) 2.4ポイント	安心・安全で質が高い教育環境の整備(①,②,③) 県立学校の耐震化率 82.0% (H26年度) → 92.2% (H29年度) 10.2ポイント	

## 4. 平成31年度に向けた課題の明確化

### <政策目標達成に向けた主な進捗状況>

奈良県学力・学習状況調査の結果分析による課題の検証、学習意欲の向上を目指した授業改善の推進、「家庭学習の手引」の活用促進、主体的な学習習慣を身につけさせる取組等により、学習意欲4項目(教科が好き、よく分かる、大切、役に立つ)に肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成19年度と比較すると、全国平均との差は小学生で0.4ポイント、中学生で1.0ポイント縮まりました。

### <戦略目標達成に向けた主な進捗状況>

県立教育研究所研修講座の充実等の取組により、平成29年度に「授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合は、小学生では全国を上回り、中学生でもほぼ全国と同程度となりました。

### <奈良県の持っている強み>

- 1 「奈良モデル」やエビデンスベースの行政を推進
- 2 学校・保護者・地域が協働し、地域の教育力を高めるための仕組みづくりは順調
- 3 家庭の教育費支出が高い
- 4 個別の指導計画作成率は高い
- 5 子どもの体力は順調に向上
- 6 規範意識に関する質問に肯定的に回答する児童生徒の割合は増加傾向
- 7 歴史文化資源が豊富であり、国宝・重要文化財件数は全国3位

### <奈良県の抱えている弱み>

- 8 授業以外に全く勉強をしない子どもが多いなど、家庭での学習習慣が二極化
- 9 自分にはよいところがあると思うなどの自尊感情が全国平均より低い
- 10 住んでいる地域の行事に参加している子どもの割合が低い等地域への関わり意識の低下
- 11 高校生の英語力が全国平均以下
- 12 若年無業者率や卒業後3年以内の離職率が高い
- 13 学校における教育用・校務用コンピュータの整備率が低い
- 14 県立学校施設の耐震化率は100%を達成していない

### <奈良県への追い風>

- a 学習指導要領の改訂
- b グローバル化の進展
- c IT化・技術革新の進展
- d 子ども・子育て支援新制度の進展
- e 障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり等共生社会の進展
- f 長寿・成熟社会の到来
- g 県民は「子どもたちが、暴力行為・いじめ等を行わないこと」「地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること」「地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること」を望んでいる

### <奈良県への向かい風>

- h 人口減少・児童生徒数の減少
- i 南部東部地域の過疎化
- j 県外就業率が高い
- k 県民の地元への愛着度が低い
- l 小・中学校の小規模化
- m 教員の年齢構成の二極化
- n 核家族化・単身世帯率の増加

### 《強みで追い風を活かす課題》

- 【重要課題】奈良県教育振興大綱の実行(奈良県総合教育会議、奈良県教育サミットの開催)  
(1,2,3,4,5,6,a,b,c,d,e,g)
- 【重要課題】いじめ防止対策の推進  
(2,6,g)
- 【重要課題】インクルーシブ教育の推進(2,4,d,e)
- ・子どもの体力向上(5,a,g)
  - ・生涯にわたる学びの推進(3,7,e,f)

### 《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

- 【重要課題】就学前教育の充実  
(8,9,a,d,g)
- 【重要課題】ICT教育環境の整備  
(13,a,c)
- ・子どもの規範意識の向上(9,10,g)
  - ・グローバル教育の推進(11,a,b)
  - ・安全・安心で質の高い教育環境の整備(13,14,c,g)

### 《強みで向かい風を克服する課題》

- 【重要課題】郷土教育の充実(7,j,k)
- 【重要課題】学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実  
(1,2,h,i,l,n)
- 【重要課題】県立大学の教育環境の充実強化(7,i,j)
- ・へき地教育の充実(1,h,i,l)

### 《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

- 【重要課題】実学教育の推進(12,j,k)
- 【重要課題】教職員の資質・能力の向上(8,9,10,11,l,m)
- ・子どもの学ぶ意欲の向上(8,9,h)
  - ・社会保障教育の推進(12,n)

## 5. 平成28年度の評価を踏まえ、平成30年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
就学前教育の充実(戦略1)	平成27年度～29年度に京都大学との連携により実施してきた海外事例の研究成果を踏まえ、平成29年度に策定した奈良県版就学前教育プログラムについて、モデル園所での実践・検証を行った上で、運動プログラムも取り入れることも含めた改良につなげることにしました。

## 6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
奈良県教育振興大綱の実行(奈良県総合教育会議、奈良県教育サミットの開催)(戦略1)	奈良県教育振興大綱に掲げられた重要業績評価指標(KPI)について、定期的にその進捗状況を点検、評価して奈良県総合教育会議や奈良県教育サミットに報告し、次の取組に反映させるPDCAサイクルを実行します。
いじめ防止対策の推進(戦略2)	スクールカウンセラーの配置とその活用推進及び学校教育相談コーディネーターのスキルアップにより、学校の教育相談体制を強化します。
インクルーシブ教育の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある幼児児童生徒への就学相談を含めた教育相談を充実するなど、特別支援学校のセンター的機能を充実します。</li> <li>・特別支援教育巡回アドバイザーによる公立小・中学校の校内支援体制づくりを促進します。</li> </ul>

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
就学前教育の充実(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県版就学前教育プログラムについて、県内数園所でモデル検証を行い、その成果をプログラムに反映させながら改良します。</li> <li>・幼保一元化に関する取組方策について、全国の先進事例等を調査し、教育サミットで報告します。</li> </ul>
ICT教育環境の整備(戦略2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育用コンピュータ、校務用コンピュータの整備をソフト、ハードの両面から進めます。また、県立学校間のネットワーク強靱化を進めます。</li> <li>・教員の情報活用能力の向上を図るため、ICTを活用した教育を推進する指導的教員を育成するための研修を開催します。</li> </ul>

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
郷土教育の充実(戦略2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「郷土学習の手引」を全小・中学校に配付し、活用を促進します。</li> <li>・指定校による実践的研究を行い、その成果を周知します。</li> </ul>
学校・家庭・地域の連携・協働体制の一層の充実(戦略2)	学校・地域パートナーシップ事業などを推進するとともに、県立学校に保護者や地域が学校運営に参画する学校運営協議会を設置するなど、コミュニティ・スクールの拡充により、組織的・継続的な学校と地域との連携、協働体制の確立を図ります。
県立大学の教育環境の充実強化(戦略1)	県立大学において、対話型少人数教育(コモンズ制)や本県の地域産業を担う専門人材の育成等を推進するとともに、その拠点となる「コモンズ棟」等の施設整備を進めます。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
実学教育の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業や地域と連携した県立高等学校における長期インターンシップ(デュアルシステム)の仕組みづくりと、高校生版アンテナショップの拡大を図ります。</li> <li>・工業高等学校に設置する最先端の工作機器を活用し、カリキュラムを開発します。</li> </ul>
教職員の資質・能力の向上(戦略2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「奈良県教員等の資質向上に関する指標」に基づき、教職員の資質・能力の向上に関して協議を行う奈良県教員等育成協議会を設置します。</li> <li>・高大連携による次世代教員養成プログラムを実施します。</li> </ul>